



The New Horizon of Research Using Materials on Han Tombs :
Using Early Han Society of the Changsha Region as a Model

上野祥史

- ① 漢墓資料研究の方向性
- ② 漢墓資料からの被葬者集団抽出のプロセス
- ③ 長沙地域の漢墓の検討
- ④ 被葬者集団の抽出と長沙前漢社会の階層構造
おわりに

【論文要旨】

漢墓資料から埋葬行為を復原し、行為の違いから被葬者集団を抽出し、集団間の関係およびその推移から社会動態を検討する試みは、漢墓資料への考古学的アプローチの一つの大きな課題である。漢帝国内部の社会構造を明らかにし、理解することは、周辺の東アジア諸地域の動向を考える上でも重要である。本稿では、その具体的な分析の一つとして、前漢期の長沙地域に着目して検討をおこなった。埋葬主体部の規模と構造、副葬品組成など、漢墓資料の諸属性を多角的に検討し、埋葬行為（パターン）を復原して被葬者集団を抽出した。その結果、前漢前期、後期ともに、4つの階層を見出すことができた。この4つの階層は、前漢前期と後期でおおよその対応がつくこと、後期には階層内において多様化することが判明し、後期の墓群の構成状況から前漢後期の長沙地域における社会構造を推察することができた。本研究を通して、漢墓資料からの漢代社会の社会構造へのアプローチの橋頭堡を築くことができたと考えられる。